

物理学委員会 物理教育研究分科会（第24期・3回）

議事要旨

日時 平成31年4月19日（金）10時00分～12時20分

会場 日本学術会議 6-6(1)会議室

出席者： 岡委員、駒宮委員、笹尾委員（委員長）、千葉委員、芝井委員、新永委員（スカイプ）、
覧具委員、村田委員、笠委員（幹事）、植松晴子参考人（報告（3）まで参加）

欠席者： なし

資料： 資料1 第2回会合議事要旨メール審議により承認済

資料2 学術フォーラム主旨

資料3 学術フォーラムプログラム案

※このほか、参考資料（1～6）、植松参考人と覧具委員より下記報告（2）（3）それぞれで用いたパワーポイントの配布資料が配布された。また幹事よりフォーラム講演者等候補について資料が配布された。

議題等

報告 （1）前回の議事の確認と報告

（2）物理教育研究に基づく実践（東京学芸大 植松晴子参考人）

（3）東北大学国際シンポジウム報告（覧具委員）

審議事項（1）本分科会主催のフォーラムについて

（2）今後のスケジュール

（3）その他

- 委員長より、各会合あたりの委員手当・交通費支給の制限について説明があった。また、前回に続き、物理教育研究の専門家の報告を受けるため、植松晴子東京学芸大准教授を参考人として招聘したという報告があった。

議事

報告事項

（1）前回の議論の確認と報告

- 委員長より、本日の資料の確認、前回会合（議事要旨はメール審議により確認済み（資料1））の議事と今回の会合の議題の確認があった。

（2）物理教育研究に基づく実践に関する報告（植松晴子参考人より）

- 植松晴子東京学芸大学准教授より、同氏が東京学芸大で実施しているチュートリアル授業について、その基本的な特徴、授業の実際、教材の作成やTAの教育などの準備、授業の効果など

について具体的な報告を受け、最後にチュートリアル授業の経験をもとにしたわが国の大学の入門物理教育への意見を聞いた。その後、質疑応答を行った。

(3) 東北大学国際シンポジウム報告（覧具委員）

- 3月2日に東北大で行われた国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革ーカール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組ー」の内容について、カール・ワイマン教授の講演の要点を覧具委員から報告を受けた。その後、質疑応答を行った。

審議事項

(1) 本会議主催のフォーラムについて

- 委員長より、本年夏に開くことを検討していたシンポジウムをフォーラムとして企画する案が提案された。フォーラムの主旨とプログラムの原案が資料2および資料3として示され、あわせて講演者の交渉状況が報告された。それらをもとに、フォーラムの日時および会場、講演者案と依頼の分担、プログラムの時間割、共催・後援の依頼先その他が議論された。またフォーラムの名称は「いま問われる物理教育改革ーより効果的な理工学部教育をめざして」とすることとし、学術会議フォーラムとして提案することを了承した。学術会議フォーラムに採択されなかった場合は公開シンポジウムとして開催することを了承した。

(2) 今後のスケジュール

- 委員長より、フォーラムとして提案する際の学術会議内での審議日程（本分科会から物理学委員会での検討を経て幹部会で審議される）が説明され、物理学委員会に提出する文書に記載する主旨等の整合は委員長および幹事に一任された。また、本分科会の次回会合はフォーラム当日（9月27日）の昼休みに行うことを確認し、その間は、必要な場合にはメールでの連絡・審議を行うことを確認した。また、次回会合の主な議題は提言の内容となることを確認した。

(3) その他

なし

以上